

機関番号：32627

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20520130

研究課題名（和文） 富田博之所蔵児童文化資料の調査及び公開のための基礎研究

研究課題名（英文） Basic Research for the study and publication of materials for children's culture in the collection of Prof. Hiroyuki Tomita

研究代表者

石井 直人（ISHII NAOTO）

白百合女子大学・文学部・教授

研究者番号：30232234

研究成果の概要（和文）：

本研究では、富田博之氏（1922-1994）が収集した日本の児童演劇・演劇教育に関する膨大な文書資料（データ件数 7,837 件）および新聞記事（データ件数 12,317 件）を整理した。これらの資料は、児童文化史の変遷を調査する一次資料として広く研究に役立てられることが期待される。データベースの作成、資料の再分類により、コレクションの全体像を明らかにし、その歴史的価値を再確認することができた。

研究成果の概要（英文）：

In this research, we classified an extensive volume of documentary materials (7,837 items) and newspaper clippings (12,317 items) about children's theatre and drama education in Japan, collected by Prof. Hiroyuki Tomita (1922-1994). It should widely serve as primary sources for researching the changes of children's culture in future.

By building a database and re-classifying the materials under new categorization method, we made clear the whole picture of the collection, and, at the same time, we could re-acknowledge its true historical value.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：芸術諸学、文学一般、演劇、児童文化、教育

## 1. 研究開始当初の背景

白百合女子大学児童文化研究センターは、本大学修士課程・博士課程《児童文学専攻》に対し、《児童文化》を専攻とする研究機関として1992年に発足した。富田氏は本センター運営委員をつとめており、その発

足に向けて尽力した経緯がある。1999年、本センターは富田氏が所蔵していた約2万点におよぶ蔵書類（書籍類、スクラップ資料など）を入手し、本センターが所蔵していた他の蔵書など（総計約4万点）とともに整備を行い、書籍については広く公開してきた。

しかしながら、明治期以降の児童演劇・演劇教育に関わるパンフレット、チラシ、文書、新聞・雑誌記事などのスクラップ資料は、生前富田氏が蒐集したままの状態でも保管され、未整備であった。蒐集された時点で何らかの意図をもって分類がなされていたはずの本資料であるが、第三者からは読みとりづらく、また資料の移管作業の過程でその分類が崩れてしまったものもあった。さらに、児童演劇や演劇教育資料は、その性質上、破棄・散逸のケースが少なくない。時代やテーマにおいて有機的なつながりをもって蒐集された資料群の整備は、早急の課題であった。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、主に児童演劇運動の推進に貢献し、児童演劇・演劇教育の理論化に先鞭をつけた富田氏が所蔵していた児童文化関連資料のうち未整備の資料（ポスター、チラシ、パンフレット、新聞・雑誌記事等）を調査・整備する点にあった。当該資料は児童文化・演劇に関わる原資料と呼べるものであり、現存するものとしては希少性が高いといえる。

この資料調査・整備によって、明治期以降の児童演劇史ならびに児童文化史を研究する上での基礎的資料を得ると共に、キーワード検索も可能となるデータベースの作成の作成を目指した。更には、富田氏が独自の観点で蒐集した新聞記事や雑誌のスクラップを体系的に整備することで、富田博之の児童文学観を明らかにすることを視野に入れた。

## 3. 研究の方法

資料の調査・整備に際しては、児童文化理論・日本児童文化史を専門とする浅岡靖央氏（日本児童教育専門学校専任講師、白百合女子大学非常勤講師）の協力を仰いだ。

### (1) 書誌情報のデータ化

まず資料群を、「文書資料」（児童演劇・演劇教育を中心とするパンフレット、チラシ、文書その他の資料）と「新聞記事」（新聞・雑誌記事の切り抜き）に大別した。その上で、それぞれのデータベースにおいて入力する書誌項目を決定し、データ入力した。

### (2) 資料の収納および修復

文書資料と新聞記事は別々のファイルに収納した。文書資料は、1点1点フィルムに挟みフォルダに収納した。また新聞記事は原則として記事が貼られている台紙ごとフォルダに収納した。これにより、資料を保護し、閲覧の利便性を図った。また劣化した資料の修復を行った。

### (3) 分類の再構築

全資料の内容を精査し、資料の分類を行った。富田氏の分類を生かしながらも、必要に応じて分類を再編成し、時代別、テーマ別に資料を整理した。

## 4. 研究成果

### (1) 文書資料の再分類

文書資料は、大分類→小分類→テーマ別に整理した。また各テーマの中で可能な限り年代順に整理した。ファイル数は計198冊となった。分類名、ファイル番号、ファイルのタイトル名は以下の通りである。

### **児童演劇** (大分類)

#### [一般] (小分類)

1. 児童演劇資料・明治期
2. 児童演劇資料・大正期①
3. 児童演劇資料・大正期②
4. 児童演劇資料・昭和戦前戦中期①
5. 児童演劇資料・昭和戦前戦中期②
6. 児童演劇資料・昭和20年代①
7. 児童演劇資料・昭和20年代②
8. 児童演劇資料・昭和30年代
9. 児童演劇資料・昭和40年代①
10. 児童演劇資料・昭和40年代②
11. 児童演劇資料・昭和50年代①
12. 児童演劇資料・昭和50年代②
13. 児童演劇資料・昭和60年代以降
14. 児童演劇資料・年代不明
15. 「桃太郎」の劇化上演史資料
16. 『おとぎの世界』掲載児童劇
17. 『童話』掲載児童劇
18. 『赤い鳥童話劇集』刊行関係資料
19. 「東書児童劇シリーズ」刊行関係資料

#### [劇団]

20. 劇団東童・公演資料①
21. 劇団東童・公演資料②
22. 劇団東童・公演資料③
23. 劇団東童・公演資料④
24. 劇団東童・公演資料⑤
25. 劇団東童・冊子資料①
26. 劇団東童・冊子資料②
27. 劇団東童・その他資料①
28. 劇団東童・その他資料②
29. 劇団ドオゲキ①
30. 劇団ドオゲキ②
31. 劇団風の子①
32. 劇団風の子②
33. 劇団風の子③
34. 劇団風の子④
35. 劇団たんぼぼ
36. 劇団東少
37. 劇団仲間
38. 劇団ロシナンテ
39. 新児童劇団
40. 前進座
41. 俳優座

- 42. 劇団・あ行
- 43. 劇団・か行①
- 44. 劇団・か行②
- 45. 劇団・か行③
- 46. 劇団・か行④
- 47. 劇団・か行⑤／さ行
- 48. 劇団・た／な／は行
- 49. 劇団・ま／や／ら／わ行
- 50. 劇団通信
- 51. 劇団関係資料
- 【関係団体他】**
- 52. 日本児童演劇協会
- 53. 日本児童演劇劇団協議会
- 54. 日本青少年文化センター
- 55. アシテジ ASSITEJ (国際児童青少年演劇協会)
- 56. 児童演劇脚本研究会こまの会①
- 57. 児童演劇脚本研究会こまの会②
- 58. 新劇団協議会『会報』
- 59. 『演劇鑑賞教室通信』
- 60. 第1回全日本子どものための舞台芸術大祭典①
- 61. 第1回全日本子どものための舞台芸術大祭典②
- 62. 児童演劇・人形劇・演劇教育関係者名簿

### **人形劇**

#### **【一般】**

- 63. 人形劇資料①
- 64. 人形劇資料②
- 65. 人形劇資料③
- 【劇団／関係団体】**
- 66. 劇団人形座
- 67. 劇団飛行船
- 68. 劇団木馬座
- 69. 人形劇団ひとみ座
- 70. 人形劇団プーク①
- 71. 人形劇団プーク②
- 72. マーガズッペ人形劇団
- 73. 人形劇団・あ／か／さ行
- 74. 人形劇団・た行
- 75. 人形劇団・な行
- 76. 人形劇団・や行
- 77. 『日本の人形劇人』①
- 78. 『日本の人形劇人』②
- 79. ウニマ UNIMA (国際人形劇連盟)

### **演劇教育**

#### **【第一次学校劇研究会／日本学校劇連盟 (戦前戦中期)】**

- 80. 学校劇研究会
- 81. 日本少年文化研究所

#### **【第二次学校劇研究会／日本学校劇連盟 (戦後期)】**

- 82. 日本学校劇連盟①
- 83. 日本学校劇連盟②
- 84. 全国学校劇研究協議会①第6・7・11回

### **【日本演劇教育連盟】**

- 85. 全国学校劇研究協議会②第15回①
- 86. 全国学校劇研究協議会③第15回②(写真)
- 87. 全国学校劇研究協議会④第16回①
- 88. 全国学校劇研究協議会⑤第16回②
- 89. 全国学校劇研究協議会⑥第16回③
- 90. 全国学校劇研究協議会⑦第18・29・39・42回
- 91. 演劇教育セミナー
- 92. 人形劇講座
- 93. 演劇教育指導者合宿研究会(写真)
- 94. 『学校劇』／『演劇と教育』関連
- 【一般】**
- 95. 『玉川学校劇』
- 96. 東京児童文化連盟／毎日こども会
- 97. 戦後演劇教育資料・昭和20年代①
- 98. 戦後演劇教育資料・昭和20年代②
- 99. 戦後演劇教育資料・昭和30年代①
- 100. 戦後演劇教育資料・昭和30年代②
- 101. 戦後演劇教育資料・昭和40年代以降
- 102. 戦後演劇教育資料・年代不明
- 103. 映画「たのしい学校劇」
- 104. 子供かぶき教室

### **海外の児童演劇／演劇教育**

#### **【中国】**

- 105. 中国の児童劇／人形劇①
- 106. 中国の児童劇／人形劇②
- 107. 中国の児童劇／人形劇③
- 108. 訪中日本民間教育代表团
- 109. 話劇人社①
- 110. 話劇人社②
- 111. 中国一般

#### **【イギリス】**

- 112. イギリスの児童演劇／演劇教育①
- 113. イギリスの児童演劇／演劇教育②

#### **【その他】**

- 114. 海外の児童演劇／演劇教育
- 115. 海外演劇教育資料

### **児童文化**

#### **【紙芝居他】**

- 116. 紙芝居①
- 117. 紙芝居②
- 118. 紙芝居③
- 119. 『紙しばい広場』
- 120. 幻燈／影絵／うっし絵

#### **【口演童話他】**

- 121. 『童話研究』
- 122. 久留島武彦先生の回想
- 123. 日本童話祭
- 124. 第34回久留島武彦文化賞選考資料
- 125. 昔話・子ども・語り手の会
- 126. 朗読関係資料

#### **【絵本】**

- 127. 絵本①
- 128. 絵本②

129. 絵本③

**[児童文学]**

130. 日本児童文学者協会

131. 日本児童文学学会①

132. 日本児童文学学会②

133. 日本近代文学館

134. 中国児童文学

135. グリム生誕 200 年祭

136. アンデルセン関係資料

**[その他]**

137. 『青少年文化』／『北の生活綴方』

138. 子どものテレビの会

139. 子ども研究

140. 国際児童年資料

141. 豊島区青少年文化協会

142. 雑誌

143. 児童文化一般①

144. 児童文化一般②

**[教育]**

145. 学校教育関係

146. キリスト教系学校資料

147. 『学校歳時記』

148. 図書館冊子

149. 全国学校図書館協議会

150. 教育一般

**[一般演劇]**

151. 演劇／芸能①

152. 演劇／芸能②

153. 演劇／芸能③

154. 演劇／芸能④

155. 演劇／芸能⑤

156. よこはま演劇研究所

**[人物]**

157. 芦谷芹村

158. 浅松一夫／足立勤／石橋達三／石井研堂／岩間秀樹／上沢謙二／上原専禄

159. 井上ひさし（こまつ座）

160. 巖本善次（若松賤子）

161. 巖谷小波

162. 太田博也／岡一太／岡倉士朗／落合聡三郎

163. 香川良成／金沢嘉市

164. 金平軍之助

165. 管忠道／岸田國士／北村順治／北村寿夫／北村芳文

166. 菊田要／木下柰太郎

167. 岸辺福雄

168. 楠山正雄／久保田万太郎／桑原三郎

169. 国分一太郎①

170. 国分一太郎②

171. 斎田喬①

172. 斎田喬②

173. 篠崎徳太郎／杉谷代水／関矢幸雄

174. 高尾亮雄

175. 高村光太郎／坪内逍遙／鳥越信

176. 滑川道夫

177. 新美南吉

178. 長尾豊／中村哲也／野坂参三／八田元夫／藤城清治／藤田圭雄／古谷綱武／堀尾

青史／松葉重庸

179. 村岡花子／柳井達雄／湯山厚

180. 山本有三

**[富田博之]**

181. 富田博之の記録①

182. 富田博之の記録②

183. 富田博之の記録③

184. 富田博之の記録④

185. 富田博之の記録⑤

186. 富田博之の記録⑥

187. 富田博之の記録⑦

188. 富田博之の記録⑧

189. 富田博之の記録⑨

190. 富田博之の記録⑩

191. 富田博之の記録⑪

192. 富田博之の記録⑫

193. 富田博之の記録⑬

194. 原稿と著作①

195. 原稿と著作②

196. 写真資料

197. 富田博之宛書簡類

198. その他

(2) 新聞記事の再分類

新聞記事は、大分類→年代順に整理した。ただしテーマに沿って収集された記事群は、大分類→テーマ別→年代順に整理した。その結果、計 132 冊のファイルとなった。分類名、ファイル番号は以下の通りである。

児童演劇・演劇教育 1～40

演劇・映画 1～29

子ども・教育 1～35

児童文化 1～25

その他 1～3

(3) 文書資料データベースの作成

① 書誌項目のデータ化

入力した書誌項目は以下の通りである。

1	大分類	14	脚本
2	小分類	15	翻訳
3	ファイル番号	16	脚色
4	ファイル名	17	演出
5	I D	18	振付
6	資料内容	19	音楽
7	公演タイトル	20	美術
8	その他タイトル	21	装置
9	劇団名	22	発行所
10	演目	23	発行年月日
11	公演日程	24	資料形態

12	公演場所	25	備考
13	原作		

② 凡例（一部抜粋）

- ・〈資料内容〉は、公演資料、冊子資料、その他資料のいずれかに分類した。
  - 公演資料：特定の公演に関わる資料
  - 冊子資料：定期刊行物、冊子類
  - その他資料：特定の公演に関わらない文書類
- ・〈公演タイトル〉は、公演資料に記載されている公演名を記した。
- ・〈その他タイトル〉は、冊子資料およびその他資料のタイトルを記した。定期刊行物であれば刊行物名および号数、巻数を、それ以外については内容に準じたタイトルを適宜記した。
- ・〈演目〉は、児童演劇に関わる演目のみを記した。
- ・同一の資料に複数の〈演目〉が記載されている場合は、同一 ID 内の別データとして処理した。
- ・〈公演場所〉は、地名を除いた。
- ・〈発行所〉は、定期刊行物の発行所を記した。
- ・〈資料形態〉は、チラシ、パンフレット、チケット、プログラム、台本、文書、手紙、写真、封筒など形態の別を記した。
- ・〈備考〉は、以下について記した。
  - 同一資料が連続してある場合は、部数を記した。例) ×2
  - 指導、作者、改修、潤色
  - コピー
  - 手書き
  - 書き込み
  - その他

③ データベースの作成

キーワード検索が可能なデータベースを File Maker で作成した。



(検索結果の一例)

(4) 新聞記事データベースの作成

① 書誌項目のデータ化

入力した書誌項目は以下の通りである。

1	分類	7	執筆者
2	ファイル名	8	新聞／雑誌名

3	ID	9	発行所
4	資料内容	10	発行年月日
5	タイトル	11	資料形態
6	シリーズ	12	備考

② 凡例（一部抜粋）

- ・〈ファイル名〉は、分類名の後に通し番号を付した。
- ・〈資料内容〉は、記事、広告、案内、書評、劇評、映画評、訃報、その他のいずれかに分類した。
- ・〈タイトル〉は以下の通り記した。
  - 記事のタイトルが複数ある場合は、大見出しを優先した。但し、大見出しがない場合は、スペース（全角）をあけて全て記した。
  - 同一シリーズの中に複数の記事がある場合は、タイトルをスラッシュ（全角）で区切り、全て記した。
- ・〈シリーズ〉は、コラム名を記した。
- ・〈執筆者〉は、複数の場合はスラッシュ（全角）で区切って記した。
- ・〈新聞／雑誌〉は、タイトルが不明で「A1」「Y2」のように記号で書き込みがある場合は、そのまま記した。夕刊にはタイトルの後ろにアスタリスク\*（全角）を付した。
- ・〈資料形態〉は、1 ページ以上ある場合は、片面を 1 ページとしてページ数を記した。例) 新聞 4 ページ
- ・〈備考〉は、以下について記した。
  - 当初、資料が綴じられていたファイルのタイトル
  - 同一資料が連続してある場合は、部数を記した。例) ×2
  - 版
  - その他

③ データベースの作成

キーワード検索が可能なデータベースを File Maker で作成した。

(検索結果の一例)



(5) 資料の概要

① 文書資料（児童演劇・演劇教育資料）

文書資料の分類に際してその中核に据えたのは、【児童演劇】（子どものための、子どもを観客とする演劇）と、【演劇教育】（子ども自身による演劇の創造・鑑賞ならびに演劇活動を通じた教育）の二領域である。これら

は、富田博之氏の主著である『日本児童演劇史』（東京書籍、1976年）と『日本演劇教育史』（国土社、1998年）とにそれぞれ対応している。

【児童演劇】については、広義には児童演劇に含まれる【人形劇】を別立てとした上で、[一般]・[劇団]・[関係団体他]の三つに区分した。そして【人形劇】は[一般]と[劇団/関係団体]の二つに区分した。

【演劇教育】については、富田氏自身が深く関わったその運動主体を歴史的にたどり、[第一次学校劇研究会/日本学校劇連盟]・[第二次学校劇研究会/日本学校劇連盟]・[日本演劇教育連盟]を柱とし、それ以外を[一般]とした。

これら以外の文書資料については、【海外の児童演劇/演劇教育】・【児童文化】（紙芝居・口演童話・絵本・児童文学・その他）・【教育】・【一般演劇】・【人物】・【富田博之】に区分した。児童文化全般や教育など子どもに関わる領域の事象や人物をはじめ、大人を対象とする演劇などにも及ぶ、富田氏の幅広い関心と目配りを物語る資料である。

この文書資料全体の中で特筆すべきものとして、第一に【児童演劇】の[一般]に含まれている文書群が挙げられる。ここには、各時代における児童演劇公演に関する個別のパンフレット・チラシ・チケットをはじめ、その他膨大かつ雑多な関連資料が時系列に沿って収められている。これは、お伽芝居→童話劇→児童劇というように、時代とともにその名称及び性格を変化させながら発展してきた近代日本における児童演劇史を裏付ける貴重資料である。また、未だ児童演劇と演劇教育とが未分化な時代から、相互に深い関わりを持ちながら各々独自の領域に分かれていったことを跡付ける資料でもある。

第二に、【児童演劇】の[劇団]に含まれる資料は、児童演劇を子どもに提供する活動が劇団という組織によって商業的に成立しさらに発展していった過程を示すものである。特に第二次世界大戦前に発足した劇団東童（東京）ならびに劇団ドオゲキ（大阪）は東西の草分けとも言える存在であるが、この両劇団に関するまとまった資料は他に類を見ない貴重なものである。

第三として、【演劇教育】に収められた[第一次学校劇研究会/日本学校劇連盟]と[第二次学校劇研究会/日本学校劇連盟]に含まれる資料は、後に演劇教育として確立される、主として教師を担い手とした教育運動の記録文書であり、富田氏自身がその運動者の一人として深く関わったという意味においても見逃すことのできないものである。

これら以外にも個別に貴重な資料が散在していることは言うまでもないが、全体としてとらえたとき、この富田氏の遺した膨大な文書資料は、氏自身が主体的に関与した演劇

教育運動の記録文書と、氏が批評者として自身の眼で確認した児童演劇公演・演劇教育活動に関する資料と、氏がライフワークとした児童演劇・演劇教育各分野の通史執筆のために集められた歴史史料とが、時にはその意味を重ねながら含まれたものと捉えることができる。その分類ならびに整理が一応完了したことで、今後さまざまな領域における調査・研究に資することが大いに期待される。

## ② 新聞記事（新聞・雑誌記事）

新聞・雑誌記事は、その内容に即して、大きく【児童演劇・演劇教育】・【演劇・映画】・【子ども・教育】・【児童文化】・【その他】に分類整理した。個々の記事内容によっては複数の領域に関わるものや判定の困難なものもあったが、いずれかの分類項目に振り分け、各項目ごとに原則として時系列に並べた。

富田氏が新聞各紙を中心にした記事スクラップを長年にわたって継続されてきたことは一部には知られていたが、この膨大な資料によってその全貌が明らかにされたことになる。

富田氏自身が戦中期における青山師範学校在籍時の学生時代に始められ、亡くなるまで続けられた営みは、児童演劇と演劇教育に関わる記事を中心にしながら、文書資料同様に幅広い領域に及ぶ、20世紀の一断面を記録するドキュメントとして貴重なものであり、今後の精査・活用によってもたらされるものは計り知れず大きいと考えられる。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

なし

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

石井 直人 (ISHII NAOTO)  
白百合女子大学・文学部・教授  
研究者番号：30232234

### (2) 研究分担者

なし

### (3) 連携研究者

佐々木 裕里子 (SASAKI YURIKO)  
白百合女子大学・文学部・助教  
研究者番号：50439501